

令和7年度 第1回大野市脱炭素推進会議 議事録

日 時 令和7年5月16日（金）午後1時30分～午後3時30分

場 所 結とぴあ3階 305・306号室

○出席者

委 員：17名（6名欠席）

事務局：5名（環境・水循環課職員）

1 開会

事務局より開会

2 委嘱状交付

3 市長挨拶

本日は、本年度1回目の大野市脱炭素推進会議に公私共に大変お忙しい中、ご出席をいただき感謝申し上げます。本推進会議の設置から2年が経過し、今回、委員改選ということで、これまでの委員におかれては、いろいろご意見いただいたことに重ねて感謝を申し上げたい。

また、23名の方のうち、8名の方が新しくなるということで、各界各層から頼もしい方々にご出席をいただけることを心強く感じている。

新しい方もいるので、心持ちを一緒にするためにお話しさせていただくと、脱炭素を聞くと少し難しそうに聞こえるが、日本国全体で機運が盛り上がってきたのは、令和2年のことになる。

そのときの菅総理大臣が日本全体でカーボンニュートラルを目指そうということを表明したことが大きな変化になっており、その年度末には、大野市も自治体として、2050年カーボンニュートラルを目指すということを表明した。

カーボンニュートラルを目指すといっても、行政だけでは出来ることが限られており、また、大野市は森林が豊富なのに目指さなければいけないのかという声もあると思うが、森林吸収量よりも市民や事業者が排出しているCO₂の方が多いということも認識したところである。

そのため、大野市脱炭素ビジョンを令和5年に策定し、目指す将来像や目標を定めて、市民の幸せな暮らしとカーボンニュートラルの同時実現が図られている望ましい絵姿を描き、皆さんと一緒に取り組もうという方向性を掲げたところである。

ちなみに、国は2050年のカーボンニュートラル達成を目指しているが、大野市の脱炭素ビジョンでは2035年までに達成するという大変野心的な目標を掲げている。

このビジョンは、プロジェクトによってどれぐらいのCO₂削減効果があるかという見積りも含んでおり、全国や福井県の中においても先進的であり、非常に精密、緻密な計画となっている。

また、今、地方創生2.0ということで、私も新しい地方経済・生活環境創生本部有識者会議の委員として関わっているが、日本政府としては、このような野心的、挑戦的な、そして、今の時代に合った地域社会を作っていくために多くの関係者の参画を得て、また、実行の主体になっていただきながら進めてい

くという方法を重要視している。

このような中で、本推進会議は、産学官金労言など、多様な分野の関係者に参画いただき、地域のさまざまなプロジェクトが進めていくことを率先して取り組んでいただいている。

ビジョンのプロジェクトを少し紹介すると、森林吸収量を維持・増加させるための森林資源の循環利用の取組、エネルギー代金の域内循環や防災力向上を図るための再生可能エネルギーの地産地消の取組、低コストで快適で暮らすための省エネ住宅や低炭素な自動車の普及の取組など、多岐にわたる。

これらのプロジェクトの推進役を担うのが当会議である。当会議の設置から2年が経過し、おかげさまでプロジェクトが着実に進んでいると受け止めている。

また、昨年度の脱炭素ワークショップから生まれた提案についても順調に進んでいる。提案の中から市としても、本年度、事業者や団体の皆様と連携し、環境フェアや事業者対象セミナーの開催などに取り組むこととしている。

地域の脱炭素化により期待される効果は、社会活動、経済活動の活性化、ひいては市民の生活の向上である。脱炭素を切り口に新しい考え方や技術を取り入れながら、市民の生活が豊かになるよう取組を進めていきたい。

皆様におかれては、それぞれの専門分野の視点から、プロジェクトの進捗状況の評価や新たな具体策の立案に関し、忌憚のない意見をお願いしたい。また、それぞれの所属団体での実践についても協力をお願いしたい。今年度もどうぞよろしくお願いします。

4 会長、副会長の選任

会長に、公立大学法人福井県立大学 経営学部 経営学科 教授 杉山友城 委員、

副会長に、越前信用金庫 経営サポート部 次長 利内 浩二委員 を選任

<会長挨拶>

大野市脱炭素ビジョンが動き出して3年目ということで計画期間の4分の1が終了した。ビジョンに掲げるプロジェクトはたくさんあるが、それぞれの進捗をモニタリング、評価して、さらには改善点を提示するということが本推進会議の目的である。ビジョンは、市民、事業者、行政など、みんなで取り組んでいくということを理念としている。その意味で、委員の皆様には、この場で知恵を出していただくことに加えて、汗もたくさんかいていただきたいと思っている。そのために何かできるのか、どうしたらいいのかということを議論するような会議にしたい。

5 推進会議の趣旨及びスケジュールについて

資料1～2に基づき事務局から説明

意見等なし

6 議事

(1) 大野市脱炭素ビジョンに掲げるプロジェクトの取組状況について

資料3に基づきプロジェクトごとに令和6年度末時点の取組状況を事務局から説明し、プロジェクト

ごとに区切って、委員の意見を仰ぎ、推進会議の総意としての進捗評価（○：順調、△：努力が必要、×：相当の努力が必要）を決定するための採決を行った。

A-① 木質バイオマス発電所への安定供給を核とした森林資源の好循環システムの確立

<意見>

【委員】福井グリーンパワー大野発電所は、令和6年度は計画通りの稼働率を達成している。このぐらいの規模の木質バイオマス発電所としては日本でも有数のトラブルがなく安定運転を継続している発電所だと思っている。また、この5月からは発電所で発電した電力を大野市の施設でも使っていただくことになっており、そういった意味では順調に進捗していると思っている。しかしながら、燃料価格高騰等の影響もあるので、皆様のご支援もいただきながら、このプロジェクトの中核として頑張って参りたい。

【委員】木質バイオマス発電所の稼働日数は十分であるということであるが、そのうち、県産材や市産材の利用がどのぐらい増えたのか。民間事業者に関する情報がないので評価しづらい。できれば数値で示していただいたほうが進捗を判断しやすい。何かそのような情報はあるか。

【事務局】ビジョンにはプロジェクトごとに数値目標を掲げていないのでその点をご容赦いただきたい。市は木質バイオマス発電所への間伐材の安定供給を支援するための補助金を運用している。搬出計画量の過去の実績は、気象条件や所有者の事情などで搬出量が増減することもあるが、総じてみると安定供給をしていると捉えている。

【委員】木質バイオマス発電所に搬入された材が遠くから運ばれてきたものであるとCO₂排出量は変わってくる。稼働しているからと言ってCO₂が確実に削減されているとは安易に言えない。今後、その辺りを判断できるような情報があれば示していただきたい。例えば、チップの生産量がどれくらいあったかとか、バイオマスストーブを導入した世帯が何件あったかなど。

【事務局】事業活動に関わることなので出せない情報もあるが、可能な限り情報は示すようにする。

【会長】プロジェクトの進捗を評価する上で、定性的に評価する視点と定量的に評価する視点がある。定量的な評価に関する情報は出しやすいが、定性的な評価に関する情報は出しにくい部分もある。その点、疑問に思われたことを発言していただいて推進会議として対応できることは対応していくという形で進めていきたい。なお、木質バイオマスの燃料は市外からのものが多いのか、市内からのものが多いのか。

【委員】市内から搬入される方が多い。市外から搬入される材は減少気味である。

【委員】福井グリーンパワーへの材の搬出の計画を立てているが、令和5年と令和6年度は計画値には若干届いていない状況である。精一杯努力しているが、他の取引先もあり、計画値には届いていない。ただし、これらの材は、経営計画に基づいた大野市からの証明がついたものであるので、その点は安心していただきたい。一方で、市外からの材の発電所への搬入量も少なくなっていると聞いている。県や森林組合連合会と協議しながら地域に貢献できるよう要望を出し続けていきたい。

<採決>

挙手多数により、令和 6 年度の進捗を「○（順調）」と決定

A-② 森林吸収分のカーボンオフセット事業の構築

<意見>

【委員】いちほまれの生産者に対し、中干し延長に関する J-クレジットの取組をお願いしているが、現状はなかなか進んでいない。引き続き、生産者への働きかけを行っていききたい。

<採決>

挙手多数により、令和 6 年度の進捗を「△（努力が必要）」と決定

B-① 健康快適！脱炭素住宅・建築物&ゼロカーボンドライブ

<意見>

【委員】ZEH に関しては、建築業界でも近年動き始めたところであり、現時点で普及状況は少ないが、省エネ法の改正もあったので今後増えていくものと考えている。

【委員】電気自動車は最近、各メーカーの開発が進み、多くの車種が出ているが、やはり価格の問題が大きい。安い電気自動車でも 300 万、400 万円となる。普通乗用車になると補助金を使っても 500 万、600 万ぐらいになる。同時に住宅の充電設備も整備しなければならない。また、地域の公共施設等へのインフラ整備も必要である。そういった点でなかなか電気自動車へのシフトは難しいと考える。やはり最近多くなっているのは、ハイブリッドカー。こちらに関しては日本国内のみならず、全世界でこちらにシフトチェンジしている。一時は電気自動車が注目されていたが、ハイブリッドカーが最も環境に良い車じゃないのかと再評価されている。なかでも、今後は電気を充電してガソリンエンジンで走行する PHV が主になってくると思う。また、既存の車でいかに CO₂を出さないかが重要。例えば、小まめにタイヤの空気圧を点検することや、必要以上に重い荷物を搭載しないことなどで CO₂を減らすことができる。エコドライブは当協会でも啓発しているので行政とタイアップして行うことは可能である。

【会長】今の意見を聞いて、現時点では、電気自動車の購買啓発よりもエコドライブの啓発の方が重要なフェーズと感じた。市民が取り組むことができる選択肢を増やすことも課題である。

【委員】想像ではあるが、電気自動車のバッテリーを作るときに、大量の CO₂を排出しているのではないかと心配している。V2H を 2 台持っており、深夜電力を電気自動車に充電して昼間にそれを逆流するというを行っているが、深夜電力の料金が高くなっているので、採算面が厳しい状況である。

【委員】再エネ電気を V2H に貯めて充電するとか、再エネ電気を発電している電力会社と契約して、安い電気の時間帯に貯めて充電するとかということをしないと、CO₂が劇的に減るということはない。その辺りの啓発活動を当センターとしても頑張るので話を聞きたいと思ったときはぜひ呼んでいただきたい。

<採決>

挙手多数により、令和 6 年度の進捗を「△（努力が必要）」と決定

B-② 共創とITを活用した利便性の向上による公共交通の脱炭素化

<意見>

【委員】大野市は、大野市地域公共交通計画を令和5年度に策定し、令和6年4月から運用を開始した。1年が経過し、効果検証も行っているところではあるが、主に、乗り合いタクシーや市営バスについて、ダイヤの改正を行ったところである。集計中ではあるが、若干の伸びが見られてるので、公共交通再編の効果が表れてきていると思う。検証の結果、随時、内容を見直していきたいと考えている。

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「○（順調）」と決定

B-③ 市街地エリアのスマートコミュニティ整備

<意見>

【委員】当社では太陽光発電を使って自家発電を行っている。規模は小さく工場を動かすような発電ではない。会社内に急速充電器を置いており、県外からのお客さんが多くなってきており、昨年だと20台ぐらいの利用があった。親会社が急速充電システムの事業を行っているので、そのような面で地域に貢献できればと思っている。

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「×（相当の努力が必要）」と決定

B-④ ごみ減量化の推進

<意見>

【委員】生ゴミ処理機を電気乾燥する方式のもの5台と、電気を使わず微生物で分解する方式のもの5台を所有している。それで野菜くずを乾燥させたものを持ち寄って堆肥にし、畑で使用し、そこで作った野菜を陽明中学校の給食に使ってもらっている。また、毎年、九頭竜紅葉まつりで堆肥をお客さんにお分けしながら、PRを行っている。今度の環境フェアでも生ゴミ処理機を展示しようかと思っている。1年間に大体500キロぐらいの堆肥を作っている。機械が余っているので、もし良かったら使っていただきたい。

【会長】このような取組は公共化していくというより一人一人に活用していただき、身近な暮らしの一部にさせていただくことが大事と考える。6月の環境フェアをPRの機会にさせていただきたい。

【委員】フードドライブの取組を開始したのは2019年からであり、県内のスーパーで年に3回行うことから始まった。大野市内には当組合が運営するスーパーはないが、市役所前の大野きらめきで年に3回、組合員や介護利用者のご家族の方をはじめ、多くの市民の方に食品等を持ってきていただいております、取組の認知度も高まっていると感じている。食品ロスの削減につながっているとのことで取組が活性化することを期待する。

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「○（順調）」と決定

C-① 小水力発電の導入拡大

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「△（努力が必要）」と決定

C-② バイオマスエネルギーの利活用

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「○（順調）」と決定

C-③ 太陽光発電の導入支援

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「△（努力が必要）」と決定

D-① 再エネの地産地消スキーム・ビジネスモデルの構築

<意見>

【委 員】 卒FIT電力の市有施設の供給について、令和5年度から始めた取組であり、市内のFIT期間が終了したお客様に当社から募集をかけ、90世帯から賛同をいただいている。取組開始からこれまでに3回ほど募集をかけさせていただいて、割合的には対象者全体の3割強にお客様にご賛同いただいております。地産地消に対する意識が高まっている感じている。小水力発電所電力の市有施設への供給については本年度から開始している。

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「○（順調）」と決定

D-② 再エネ供給による産業振興

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「×（相当の努力が必要）」と決定

D-③ 農業系未利用資源を活用した通年型農業の構築

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「△（努力が必要）」と決定

E-① 官民連携による脱炭素プロジェクトの推進

<意見>

なし

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「〇（順調）」と決定

E-② 脱炭素人材の育成とネットワークづくり

<意見>

【委員】各市町が脱炭素の計画をどんどん立てているところであるが、とても細かく作りこみ、先進的な目標を掲げているという点では、大野市のビジョンが一番だと思う。ただ、この目標を達成していくためには市民の理解が必要である。昨年度は市の依頼を受け脱炭素啓発パンフレットの作成に協力した。脱炭素は自然環境の分野と違い、市民から敬遠されがちではあるが、とにかくパンフレットを読んでほしい。県ではデコ活ふくいを進めており、今度の環境フェアでも出展することになっている。当センターでも一つ一つの行動がCO₂削減になるということを伝えていきたい。脱炭素ワークショップの具体策にも入っているが、小中学生向けの家庭のCO₂排出量を算定する課題学習という具体策については、ぜひ一緒にやっていきたいと思っている。また、皆さんの方でも脱炭素に向けたヒントが欲しいということであれば協力するのでよろしくお願いいたします。

<採決>

挙手多数により、令和6年度の進捗を「〇（順調）」と決定

（2）脱炭素ワークショップ報告書に掲げる具体策の取組状況について

資料4に基づき事務局から説明

<意見>

【会長】私も昨年度の脱炭素ワークショップも参加した。夜に集まって議論を行い、細かいところまで踏み込んだ具体策が提案できたと思っている。提案しただけでなく、実際に取組が進んでいるということであり、今後継続していくことが大事と考える。各団体におかれても協力をお願いしたい。

（3）構成団体からの活動報告

越前信用金庫及び北陸電力株式会社からの活動報告（資料及び説明内容は非公表）

（4）その他

<意見>

【委員】脱炭素は啓発活動が重要と考える。大きな企業だけでなく、中小・零細企業でも取組が進むことを期待する。

【委員】木質バイオマス発電所に関連して、森林から搬出する際に木材が道に残ってしまうと河川に泥や木くずなど入ってしまい環境を悪化させてしまうのでその点をご留意いただきたい。

【委員】当社では令和6年5月から大野市宝慶寺地係で小水力発電所を運営している。現在、安定的な運転ができるように気候変動の影響に備える努力を行っている。企業版ふるさと納税制度を活用した取組は脱炭素の目標達成を飛躍的に高めると思う。当社でも、経済産業省の補助事業を活用して市内の河川で、新たな小水力発電所を作るための事業性評価を行ってきた。現在、基本設計が終わって事業化に向けて準備を進めているところである。企業版ふるさと納税制度を生かして、小水力発電所の脱炭素化と農山村の振興を図るため、行政を含め、多様な主体と新たな関係の構築を進めていきたい。

＜事務連絡＞

事務局より環境関連行事等の案内

7 閉会

【副会長】本日は、大野市脱炭素ビジョンに掲げるプロジェクトの取組状況、脱炭素ワークショップの具体策の取組状況、構成団体からの報告について議論を行った。昨年度の成果も踏まえて、本年度も皆様と力を合わせて具体策を進めていきたい。

＞＞終了